

# 日本近代文学会 関西支部 会報 第6号

関西支部事務局 02・7・31

研究会編―主に関西で行なわれていた研究会について、以下の項目順で紹介します(順不同)。

- ①会の名称
- ②代表者または事務局等の連絡先
- ③入会案内
- ④その他

## ①芥川龍之介研究会

②吉岡由紀彦(事務局)、ホームページ  
http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ryunosuke/5569 掲示板  
http://bbs10.otd.co.jp/1019778/bbs-plain

## ③本会は、大学の枠を超えて、芥川龍之介について研究すべく、関西在住の院生・研究生・大学教員を中心

に一九九八年に発足されました。現在の会員数は十余名です。東京・新潟・四国からも参加されています。また、他の作家(漱石や武者小路)を研究対象とする方も来て下さっております。年四回(四、六、九、十一月)、土曜日に

大阪市内で研究発表会を開催しています。参加資格は設けておりませんが、読書会や愛好会ではなく「研究会」という点だけはふまえておいて頂きたく存じます。

④これまでの活動内容(発表題目・発表者・会場等)については、『国文学』「学界教育界の動向」欄、『文学・語学』「彙報」欄、『いずみ通

信』「催し・研究会・同人誌などのご案内」欄を参照下さい。通信費を頂ければ葉書で、アドレスをお教え頂ければメールで例会案内を送らせて頂きます。

## ①三重近代文学研究会

②〒516-8555伊勢市神田久志本町一七

〇四、皇學館大学文学部半田教室、

〒〇五九六・二二一・六四一〇

③七月、十二月の第三土曜日(年2回)

## ①近代部会(大阪国文談話会)

②鳥井正晴、相愛女子短期大学 日本語

市住之江区南港中四、四一、〇〇三三

〇六・六六一一・五九〇〇(代)

③漱石の作品を、章を追って、丁寧に読んでいく、輪読会です。

①文学論を読む会

②鳥井正晴、相愛女子短期大学 日本語

市住之江区南港中四、四一、〇〇三三

〇六・六六一一・五九〇〇(代)

③パフチンを、輪読します。テキスト

「美的活動における作者と主人公」

(ミハイル・パフチン全著作・第1巻、水声社)

①島尾文学研究会

②代表 高坂薫、事務局 プール学

院大学 西尾宣明研究室、〒590-0114

堺市榎塚台四・五・一、〒〇七二〇

二九二・七二〇二(代表)

③研究会は、原則として年二回。参加

加希望者は、事務局へご一報ください。

## 会員の業績編

(凡例)

著書名……『』

論文名……『』

掲載誌紙名……『』

注記等……( )

※著書、論文(その他を含む)の順

にそれぞれ発表順に並べた。

※掲載誌紙の巻号数は省略し、原則

として雑誌は発行月のみ、新聞は

発行月日を記した。発行月のうち

4月〜12月は二〇〇一年、1月〜

3月は二〇〇二年のものである。

発行月ではなく月号数になっている

ものもある。

※原則として雑誌の編者名・発行所

名は省略し、単行本の編者名・

発行所名等は会員の届出に記載の

あるもののみ記した。

※著書名・論文名・掲載誌紙名の用

字は、原則として会員届出の記載

に拠っている。

ア行の部

青田寿美

〇『鴉外全集』第三十五巻 日記素

引(人名篇)『神女大國文』3月

明里千章

〇『谷崎潤一郎 自己劇化の文学』

和泉書院、6月

〇「自分の手で書くということ―谷

崎潤一郎『渡辺千萬子 往復書簡』

をめぐって―『芦屋市谷崎潤一郎記

念館ニュース』9月

〇「谷崎潤一郎全作品集」内、二

九編『別冊國文学 谷崎潤一郎必携』

11月

―ジュー『金蘭国文』3月

足立直子

〇「芥川龍之介『お富の貞操』論―

芥川の貞操観とお富の(確信)―」

『日本文藝研究』3月

岩見幸恵

〇「金子みすゞとマザー・グース―

シックエンスする世界―」『金子みす

ゞ永遠の母性』勉誠出版、8月

〇「永井荷風『すみだ川』本文改訂

についての一考察―古典、外国文学、

江戸芸術との関わりで―」『親和國文』

12月

梅本宣之

〇『高見順研究』和泉書院、3月

岡田正子

〇「幸田露伴『風流佛』考―」『発端

如是我聞』と「團圓 諸法實相」をめぐ

ぐつての西歐的、キリスト教的視点

からの考察―」『日本文藝研究』9月

荻原桂子

〇『増補 夏目漱石の作品研究』花書

院、4月

〇「魔の物語―ルイス・キャロル』不

思議の国のアリス』と宮沢賢治『注

文の多い料理店』(口頭発表)、日

本比較文学会九州大会(於佐賀女子

短期大学)、7月

〇「宮沢賢治『注文の多い料理店』

論―(ほんたうのたべもの)につい

て―」『九州女子大学紀要』9月

〇「生涯学習としての鴉外の読書―

九州共立大学・九州女子大学・九

州女子短期大学生涯学習研究センタ

―紀要』3月

○「芥川龍之介『歯車』論―不条理な意識」『九州女子大学紀要』3月

奥野久美子

○「芥川龍之介「枯野抄」論」『国語国文』8月

○「大正前期の歴史小説・史劇論―〈新解釈〉と〈歴史性〉をめぐる文壇的背景芥川」『京都大学国文学論叢』11月

### 力行の部

金岡直子  
○「安岡章太郎―「悪友もの」をめぐって」『昭和文学研究』3月

川端俊英

○「人権からみた文学の世界・大正篇」部落問題研究所、4月  
○「津田潔「破戒」研究の提起に就いて」『部落問題研究』6月

北川扶生子

○「『虞美人草』と〈美文〉の時代」『漱石から漱石へ』翰林書房、00年5月

○「言葉と身体―夏目漱石『行人』の場合」『近世と近代の通廊』双文社、01年2月

○「尾崎翠『アップルパイの午後』におけるパロディの方法」『解釈』1月

○「谷崎潤一郎『春琴抄』の世界」『愛の言葉』鳥取大学教育地域科学部国際言語文化講座、3月

木村有美子

○『内田魯庵研究―明治文学史の側面』（和泉選書）和泉書院、5月

國中 治

○「立原道造「緑蔭倶楽部」の物語と詩」『日本現代詩研究者国際ネットワーク』会報』4月

○「純粹培養された（四季派）―能美九末夫」『詩と思想』6月  
○「前衛詩人・立原道造」『詩と思想』10月

○「立原道造「オメガガぶみ」を読む―フーガの適用」『神戸松蔭女子学院大学・短期大学』研究紀要（人文科学・自然科学篇）3月  
○「立原道造の椅子・萩原朔太郎の椅子」『詩界』3月

久保田暁一

○「椎名麟三と三浦綾子の異同点」『椎名麟三―自由の彼方で』11月  
○「椎名麟三とカミュ」椎名麟三研究会編著『論集椎名麟三』おうふう、3月

倉西 聡

○「②福永武彦『風のかたみ』論―その愛の形について」『武庫川国文』9月

黒田大河

○「宮永孝著『ポーと日本―その受容の歴史―』（書評）『阿部知二研究』4月

○「兵藤裕己著『声』の国民国家・日本―『国民』という物語の対象化―（書評）『日本近代文学』10月  
○「本多秋五『物語文学史』川村湊編『戦後』という制度―戦後社会の「起源」を求めて―（文学史を読みかえる第5巻）（文献解題）、3月

○「言葉を『綴る』のは誰か？―川

村湊『作文のなかの大日本帝国』（書評）同前

小林幹也

○「新ハムレット」論―偽善をめぐって―『昭和文学研究』9月  
○「太宰治「津軽」と戦争」『近畿大学日本語・日本文学』3月

### サ行の部

斎藤理生

○「太宰治「眉山」論」『語文』12月  
○「太宰治「吉野山」論」『解釈』2月

佐伯順子

○「泉鏡花と視聴覚芸術3『夜行巡査』『高野聖』『瓜生通信』5月  
○「泉鏡花のイコノロジー―『天守物語』の視聴覚的展開」『国文学』5月

○「女形のジュネ」『空中庭園』バルコン』公演パンフレット』6月

○「遊女の今様―その比較文化的広がり」『中世文学』6月  
○「泉鏡花と視聴覚芸術4『婦系図』新派／花組芝居」『瓜生通信』8月

○「女主人公は誰？―芸者と女学生のはざままで」『花組芝居』泉鏡花の婦系図』公演パンフレット』8月

○「泉鏡花」日本のこころ（月の巻）』講談社、12月

○「結婚の「常識」をめぐって」『常識の社会心理』北大路書房、2月  
○「泉鏡花と視聴覚芸術5『天守物語』『瓜生通信』3月

○「女と男の位相―能、狂言と近代文学」『国立能楽堂』3月  
○「オーランドーの矜持―書くこと

とジェンダー』『新日本古典文学大系明治編第23巻月報6』岩波書店、3月

佐藤和夫

○「真実の愛に生きる―『失楽園』と『風の盆恋歌』」『神戸親和女子大学生涯学習センター紀要』01年3月  
○「黒島傳治と現代―「反戦への切なる心情」伝えたい」『毎日新聞』7月13日  
○『黒島傳治全集』全5巻、勉誠出版、7月

清水康次

○「天理図書館蔵『吾輩ハ猫デアル』印税受取書」『ピブリア』5月  
○「春の盗賊」論―多元的な物語世界―『太宰治研究』6月

○「暗夜行路」第二―を読む―直面の時・発見の時』『京都光華女子大学研究紀要』12月

真銅正宏

○「志賀直哉―私が奈良に住んでいた頃―」浅田隆・和田博文編『古代の幻』世界思想社、4月

○「シンボジウム―古代という幻の装置―同前

○「奈良を舞台にした作品一五〇の窓」のうち「小室案外堂」新編大和錦／池田小菊「帰る日」／中里介山「夢殿」／三上於菟吉『天誅組』／明石鉄也『吉野の朝霧』、同前

○「反抗と諦め」『週刊朝日百科世界の文学』朝日新聞社、5月  
○「森のなかの海（上・下）」宮本輝著（書評）『日本経済新聞』7月22日

○「書評 江種満子・井上理恵編』20

世紀のベストセラーを読み解く—女性・読者・社会の100年— | 流行と女性性のはざままで— 『日本近代文学』 10月

○「中野重治を教える困難」『梨の花通信』 10月

○「戯作と論説の邂逅—「吾輩は猫である」論—」『漱石研究』 10月

○「谷崎潤一郎キーワード事典」『歌舞伎／文楽』「草双紙」「聴覚／音曲」

○「別冊国文学 谷崎潤一郎必携」 11月

○「詩の押韻と偶然—丸鬼周造の偶然論と文学論—」『人文学』 12月

○「興福寺」浅田隆・和田博文編『世界遺産奈良』風媒社、1月

○「偶然性と文学の蘇生」(双曲線)『京都新聞』 1月23日

○「偶然のロマンティシズムと文学—短歌と私小説をめぐって—」『人文学』 12月

○『言語都市・パリ 1862-1945』(共編著、共著者和田博文・竹松良明・宮内淳子・和田桂子)藤原書店、3月

杉田智美

○「片上伸『文芸教育論』の展開—文壇から社会へ—」『阪神近代文学』 3月

鈴木昭一

○「夜明け前」と『日本鉄道史上篇』

○「青須我波良」01年3月

○「藤村記念館蔵 大脇信興筆明治三年—年内諸事日記帳三拾巻番—翻刻その一—」『帝塚山芸術文化』 01年3月

○「東方の門」と『過海大師東征傳』

○「青須我波良」 3月

須田千里

○「近代文学の中の『書画骨董雑誌』」『館報池田文庫』 4月

○「佐藤春夫と中国文学(上)」『文学』 7月

○「本文と注釈」『日本近代文学』 10月

○「演劇関係雑誌のなかの作家たち」『館報池田文庫』 10月

○「明治の精神」とは何か—「心」における「先生」の死をめぐって—

○「文学・増刊」 10月

○「文人変貌論」(座談会)『文学』 1月

○「女物語—続き物、紅葉、鏡花—」『ジェンダーの生成 古今集から鏡花まで』臨川書店、3月

高松敏男

○「若き日の涙香、最初の活躍—」『大阪日報』への投稿と『政事月報』の編集—伊藤秀雄・榎原貴教共編『黒岩涙香の研究と書誌(翻訳研究・書誌シリーズ別巻1)』ナダ出版センター、6月

塚田満江

○「現代女流文学考—その文学風土をめぐって—」『日本文学風土学会紀事』 6月

外村 彰

○「本多浩『室生犀星伝』(書評)『日本文学』 9月

○「犀星作品と近江」『室生犀星研究』 10月

○「岡本かの子『河明り』定稿校異(三)」『京都学園中学高校論集』 11

月

○「外村繁書誌稿」補遺(一)—書目・著述年表(『友愛』誌ほか)篇—

○「論究日本文学」 12月

鳥井正晴

○「書名」で綴る、「漱石研究」の活況、あれこれぞな、もし」『門(鎌倉漱石の会・会報)』 3月

○「明暗評釈十第二十五章〜第二十九章」『相愛国文』 3月

永栄啓伸

○「異端者の悲しみ—揺れる自画像」『国文学解釈と鑑賞』 6月

○「痴人の愛」ほか30編の作品紹介

○「別冊国文学 谷崎潤一郎必携」 11月

永瀧朋枝

○「新生」の内なる透谷」『島崎藤村研究』 9月

生井知子

○「暗夜行路」小論」『没後30年 志賀直哉展』 図録』 10月

○「《空想》から『智慧と運命』へ—『暗夜行路』『城の崎にて』『佐々木の場合』の場合—」『志賀直哉全集 補巻四 月報』 1月

西尾宣明

○「プレゼンテーション演習I」(共著)樹村房、3月

○「島尾敏雄の小説解釈への一つの視点—一九五二年の質的転換を機軸に—」『阪神近代文学研究』 3月

信時哲郎

○「文語詩稿 五十篇」『国文学解釈と鑑賞』 8月

○「結核患者・宮沢賢治」(口頭発表)、上智国文学会、1月

○「宮沢賢治とハヴロック・エリス性教育・性的周期律・性的抑制・優生学」『環境文化研究所紀要』 3月

○「アルバイトについて語ってみよう」共著『プレゼンテーション演習I』樹村房、3月

ハ行の部

橋本 威

○「編集人への手紙」『NANIWA』 7月

○「啄木と大地—(大地)の欠如—」『PO』 11月

○「《文学の言葉》論・序」『梅花女子大学文学部紀要』 12月

○「泣きぬれて蟹とたはむる石川啄木」『啄木文庫』 3月

半田美永

○「佐藤春夫と蕪村・子規—『熊野路』を視座として—」『定本佐藤春夫全集月報』臨川書店、4月

○「中山義秀「台上の月」」『中日新聞・三重の文学誌』 5月15日

細江 光

○「満願」論」『太宰治研究』 6月

○「マゾヒズム」「フェティシズム」—「スカトロロジー」と三十作品の「初出」・「梗概」・「評価」』『別冊国文学』 谷崎潤一郎必携』 11月

○注、『鍵・瘋癲老人日記』(新潮文庫)、12月

○「上山草人年譜稿(一)—谷崎潤一郎との交友を中心に—」『甲南女子大

- 『谷崎潤一郎と小野賢一郎・「草汁」—全集逸文紹介—』同前
- 『「正しい本文」は存在するののか？—井伏作品における本文の問題—』『プロブレマティク』7月
- 『「文学界」(聚芳閣)細目稿補遺—『兵庫教育大学近代文学雑誌』1月
- 「井伏鱒二「乳母車」をめぐって—「歪なる凶案」との本文異同の検討、その他—」同前
- 『「文学界」(聚芳閣)新出資料と井伏鱒二聚芳閣勤務時代』『言語表現研究』3月

### マ行の部

前田貞昭

- 「掘辰雄—万葉びとを求めて」『古代の幻—日本近代文学の(奈良)』世界思想社、4月
- 「天使は夢想する—清原啓子の銅版画」『本の都』7月
- 「スフィンクスは夢想する」『本の都』8月
- 『増補版 岡本かの子論』E D I、8月
- 「富ノ澤麟太郎—モダニストの軌跡」『淵叢』8月
- 「誰もいない異界—ヒメを殺すと」『文学』11月

宮川 康

- 「散る日本」『禅僧—「木々の精、谷の精」—勉強記』『醍醐の里』『総

- 「売られる娘の物語—『たけくらべ』試論—」『弘前大学教育学部紀要』3月
- 「吉岡由紀彦—『枯野抄』覚書—作中人物の語られ方を中心に—」『近代文学論創』6月
- 「芥川龍之介と『第二回高原夏期大学』—参加の経緯と講義内容概観—」『大阪産業大学論集(人文科学編)』10月

宮南美佳

- 「夏目漱石「一夜」試論—「場」の共有を視点として—」『日本文藝研究』6月

宮山昌治

- 「芥川龍之介主要文献目録(昭和60年—平成13年) 菊地弘・久保田芳太郎・関口安義編著『改訂版 芥川龍之介事典』7月

### ヤ行の部

屋木瑞穂

- 「記憶の風景—樋口一葉「雪の日」論—」『語文』12月

安森敏隆

- 「相聞歌にみる言語的転位(1) 万葉から現代短歌へ」『ポトナム』9月
- 「相聞歌にみる言語的転位(2) 万葉から現代短歌へ」『ポトナム』10月
- 「大学教授の介護日記 介護・男のうた365日」新葉館出版、11月
- 「介護うたあわせ 介護・女と男の25章」京都修学社、1月

山本欣司

- 「明治の森 時代人物(西郷隆盛・大久保利通・成島柳北・高島藍泉)」『明治文芸館I—新文学の機運—』嵯峨野書院、5月
- 「十一章 近代演劇」『大正文学史』晃洋書房、11月

- 「売られる娘の物語—『たけくらべ』試論—」『弘前大学教育学部紀要』3月
- 「吉岡由紀彦—『枯野抄』覚書—作中人物の語られ方を中心に—」『近代文学論創』6月
- 「芥川龍之介と『第二回高原夏期大学』—参加の経緯と講義内容概観—」『大阪産業大学論集(人文科学編)』10月

吉岡由紀彦

- 「芥川龍之介と『第二回高原夏期大学』—参加の経緯と講義内容概観—」『大阪産業大学論集(人文科学編)』10月

渡邊ルリ

- 「蠱疾」と「かめれおん」—「かめれおん日記」序論—」『東大阪短期大学紀要』3月

### ワ行の部

和田博文

- 『古代の幻—日本近代文学のく奈良—(共編) 世界思想社、4月
- 「モダニズム詩誌の調査」『日本近代文学館』5月
- 「前衛詩誌と村山知義—一九二四—一九二五」『徬書月刊』6月
- 「イスタンブールの闇」『世界遺産と都市』風媒社、6月
- 「山本芳明著『文学者はつくられる』」『日本文学』7月
- 「芥川の上海体験」『国文学』9月
- 「散歩」『スポーツ』『堀辰雄事典』勉誠出版、11月
- 『コレクション・日本シニールレアリズム15 シニールレアリズム基本資料集成(単編) 本の友社、12月
- 「都市」『解釈と鑑賞別冊 坂口安吾事典(事項編)』12月
- 「東アジア地域の日本近代文学—

- 「李征著『表象としての上海』」『横光利一文学会会報』2月
- 「近代詩と現代詩の境域—『平戸廉吉詩集』を鏡として—」『日本現代詩歌研究』2月
- 『文学でたどる世界遺産・奈良』(共編) 風媒社、2月
- 「パリを鏡として日本近代を読む」『機』3月
- 『言語都市・パリ 1862-1945』(共著) 藤原書店、3月

和田芳英

- 「ロシア文学者昇曙夢&芥川龍之介論考」和泉書院、11月
- 「ロシア芸術とのコレスポンダンス—志賀の場合、あるいはその周辺—」『国文学解釈と教材の研究』4月

(文責 宮川 康)

**関西支部のホームページ**  
もう御覧になりましたか？

ホームページは <http://www5c.biglobe.ne.jp/~kindai/>

メールアドレスは <mailto:kan.saishibu@mri.biglobe.ne.jp>

皆様のアクセスを、心よりお待ちしております。